JAPAN SOCIETY FOR THE PROMOTION OF SCIENCE
日本学術振興会

2020年度統計関連学会連合大会
2020年9月10日13:00-15:00 C会場

人文学・社会科学分野におけるデータインフラストラクチャー —データカタログの整備— [2CPM1-02]

人文学・社会科学分野におけるデータインフラストラクチャー構築推進事業の現状

日本学術振興会人文学・社会科学データインフラストラクチャー構築推進センター
廣松毅、前田幸男、伊藤伸介、池内有為
国立情報学研究所
朝岡誠、林正治、藤原一毅、船守美穂、山路一禎

内　要

- 人文学・社会科学分野の取り巻く環境
- 日本学術振興会「人文学・社会科学データインフラストラクチャー構築推進事業」*の取組
- データインフラストラクチャー構築推進事業の体制
- 拠点機関の保有データ
- 総合データカタログについて
- オンライン分析システムについて

＊当該事業については　https://www.jsps.go.jp/j-di/index.html を参照

人文学・社会科学分野の取り巻く環境①

＜人文学・社会科学の重要性＞

◯ 人文学・社会科学は、多様な文化や価値観に対する認識を深め、社会的な合意形成や社会的対立の解決方法を探求する際に非常に大きな役割を持つ。

＜人文学・社会科学におけるデータの重要性＞

◯ 人文学・社会科学のデータは、人々の意識、状態、行動等を記すため、人間の営みや社会事象を捉えることができ、社会と文化の発展にとって貴重な資源である。

◯ 人文学・社会科学研究においても、データの分析は国際共同研究の重要な要素となっており、また国際的なジャーナルへの投稿には検証可能なデータの公開が条件となりつつある。

◯ 客観的な証拠に基づく政策立案（EBPM）をはじめ、社会の様々な意思決定などに不可欠な共有資産となっている。

◯ オープンサイエンスの潮流も踏まえ、欧米のみならずアジア諸国でも国家レベルの取組として、データの国際的な共有・利活用の基盤が整備されている。

人文学・社会科学分野の取り巻く環境②

＜我が国の現状＞

○ 我が国では、個人研究の度合いの強い人文学・社会科学のデータの多くが個々の研究者の管理に委ねられており、しかも、貧困や高齢化、国民意識などに関する代表的な国際調査でさえも、調査主体である研究者グループの自主的な取組に依っている。それらの分野を支えてきた研究者が退職時期を迎えようとする今日、こうした取組が途絶え、或いはデータが散逸すれば、国際的な調査研究から日本が消えてしまう危機にある。

○ アジア諸国と比べてもデータの多言語対応は遅れており、共同研究の国際化が進む中、日本が取り残される危機にある。

○ データの共有が進まないこともあり、研究者がそれぞれに同様の調査、データの編集等を行うことにより、研究活動の効率性を損ね、国際競争力のある研究とその発信が弱化する懸念がある。

【基礎科学力の強化に関するタスクフォース審議のまとめ】

社会科学分野において、データプラットフォームの構築を検討する。オールジャパン体制によるデータ・サプライヤーとしての機能に特化し、中立的かつ持続的な活動を可能とする組織的な枠組みとし、社会科学系データの一元的な収集・保管・提供・活用を図る。（平成29年4月）

【学術の総合的発展をめざして～人文・社会科学からの提言～（日本学術会議）】

歴史資料・公文書・調査データなどのデータベースの構築は、人文・社会科学の新たな展開にとって不可欠であるばかりか、国際的な共同研究の基盤形成にも必要である。（平成29年6月）

日本学術振興会としての取組

○ 人文学・社会科学分野の振興を目的として、平成30年度より、「人文学・社会科学データインフラストラクチャー構築推進事業」を新設

人文学・社会科学のデータの共有、利活用を
促進する基盤を構築

人文学・社会科学データインフラストラクチャー構築推進事業の取組

中核（日本学術振興会）機能の構築

・データ所在・状態把握
・継続的な事業周知・広報
・共通ガイドラインの検討・策定
・総合的なデータカタログ提供基盤の開発
・オンライン分析システムの開発
・国際的な連携・発信

データの利活用システムの構築により人文学・社会科学研究データ利活用の大幅進展を支援

拠点（研究機関）機能の強化

・人文学・社会科学の調査研究データの拠点を、業務を委託することにより実施

拠点　拠点　拠点　拠点　拠点

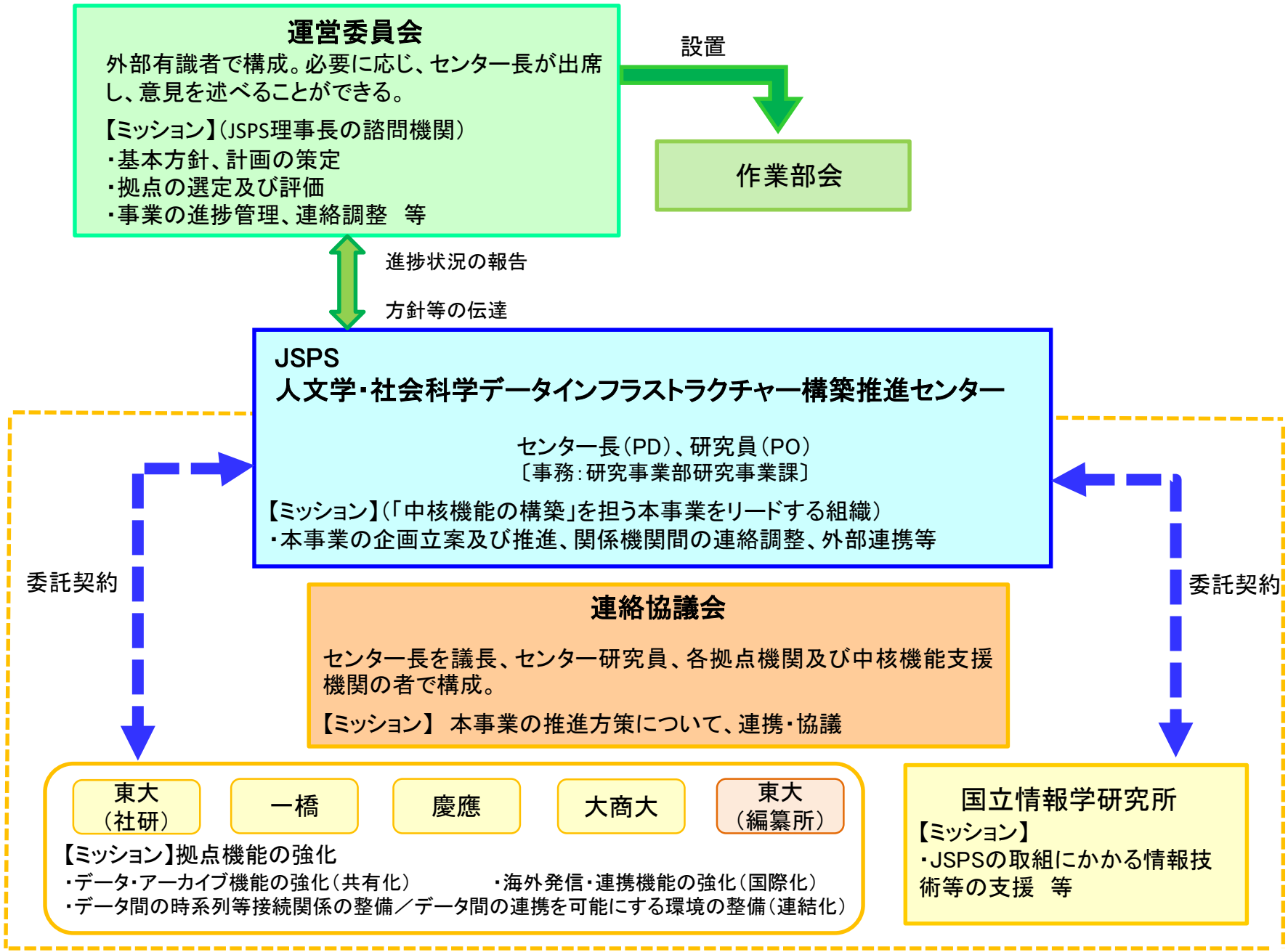
・データ収集・アーカイブ化
・データ・ドキュメンテーション
・データ多言語化
・公開支援
・データ連結化

データ共有基盤の構築により人文学・社会科学研究データの公開・共有化の大幅進展

人文学・社会科学分野の研究基盤の整備

日本の人文学・社会科学研究の「見える化」による国際共同研究の促進

人文学・社会科学データインフラストラクチャー構築推進事業　実施体制図



人文学・社会科学データインフラストラクチャー構築推進センター

センターの体制

○平成30年11月15日　人文学・社会科学データインフラストラクチャー構築推進センター設置

（令和元年10月7日現在）

役職	氏名	所属等
センター長 （PD）	廣松　毅	東京大学名誉教授 情報セキュリティ大学院大学名誉教授
研究員（PO）	前田　幸男	東京大学大学院情報学環教授
研究員（PO）	伊藤　伸介	中央大学経済学部教授
研究員（PO）	池内　有為	文教大学文学部専任講師

人文学・社会科学データインフラストラクチャー構築推進事業の中核と拠点

中核（日本学術振興会）機能の構築

機関名	研究所等名
日本学術振興会	人文学・社会科学データインフラストラクチャー構築推進センター
情報・システム研究機構	国立情報学研究所※1

※1　総合的なデータカタログ提供基盤の開発
※1　オンライン分析システムの開発

拠点（研究機関）機能の強化

機関名	研究所等名
大阪商業大学	大阪商業大学JGSS研究センター
慶應義塾大学	経済学部附属経済研究所パネルデータ設計・解析センター
東京大学	社会科学研究所附属社会調査・データアーカイブ研究センター
一橋大学	経済研究所
東京大学	史料編纂所

人文学・社会科学データインフラストラクチャー構築推進事業の推進に向けて～これまでの取組～

＜平成30年度の取組＞

- 社会科学系分野のデータインフラストラクチャーを整備する拠点機関の選定
- 中核機能の支援業務の委託（総合的なデータカタログの作成、オンライン集計システムの確立等）
- 事業の広報活動：シンポジウム、JSPS広報媒体を通じての広報活動
- 人文学・社会科学系の研究者のデータ保有状況等の調査
- 諸外国のデータアーカイブ機関等の情報収集
- 法律的課題に関する情報収集
- その他文部科学行政における情報収集等

＜令和元年度の取組＞

- 人文学分野のデータインフラストラクチャーを整備する拠点機関の選定
- データ寄託のための共通ガイドライン（手引き）の策定（社会科学分野）
- JSPSメタデータスキーマ、統制語彙の策定
- 諸外国のデータアーカイブ機関等の情報収集

人文学・社会科学データインフラストラクチャー構築推進事業の推進に向けて～令和2年度の取組～

◯ データ共有・利活用、権利関係等に関するガイドライン（手引き）の策定

◯ 総合データカタログ（JDCat＝Japan Data Catalogue for the Humanities and Social Sciences）の試験運用

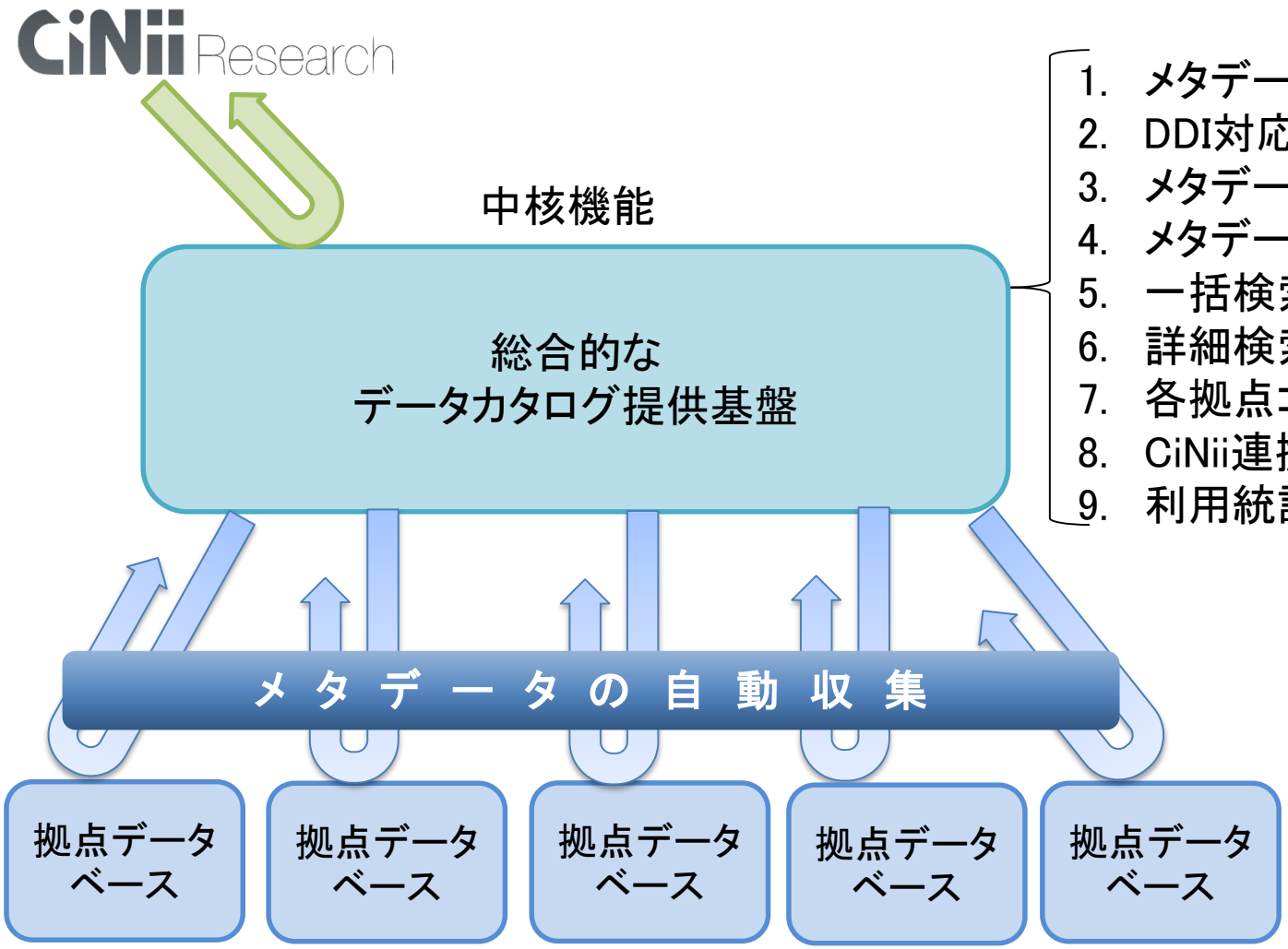
◯ 委託業務の継続実施

◯日本学術振興会と拠点機関、NIIとの連携および事業の推進に向けた協議を行うために、連絡協議会と戦略会議を継続的に実施

各拠点機関が既に保有するデータ

- 大阪商業大学 **JGSS研究センター**
  - 日本版総合的社会調査（Japanese General Social Surveys：JGSS ）
  - 台湾・韓国・中国との共同研究「東アジア社会調査プロジェクト （East Asian Social Survey：EASS）
- 慶應義塾大学 **経済研究所　パネルデータ設計・解析センター**
  - 家計や企業の意識や行動を長期にわたり追跡調査できるパネルデータ
- 東京大学 **社会科学研究所附属社会調査・データアーカイブ研究センター**
  - 1950年代から現在に至るまでの2,000セットを超える幅広い社会調査のマイクロデータ
- 一橋大学 **経済研究所**
  - 明治初期以降の日本統計年鑑
  - 長期経済統計
- 東京大学 **史料編纂所**
  - 明治維新までの国内外の幅広い日本史史料

総合データカタログについて



1. メタデータ自動収集機能
2. DDI対応機能
3. メタデータ登録機能
4. メタデータ拡張機能
5. 一括検索機能
6. 詳細検索機能
7. 各拠点コレクション表示機能
8. CiNii連携機能
9. 利用統計情報レポート機能

オンライン分析システムについて

研究利用

②分析

①アップロード

③公開・共有

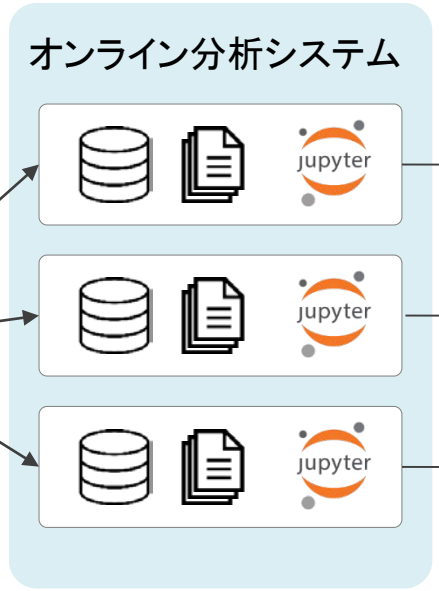
1. 公開データ保存機能
2. アクセス制限対応機能
3. プログラム保存機能
4. 分析ツール選択機能
5. ダウンロード機能
6. グルーピング機能
7. グループ内共有機能
8. 「学認」対応機能
9. 利用者数を考慮した環境構築

教育利用

先生

①アップロード

②ダウンロード



③分析

学生